

### 『ア・フュー・グッドメン』

1992年/アメリカ/ロブ・ライナー監督作品

## この年代に作られた最高の映画

会員 柿原 達哉 (65期)



「ア・フュー・グッドメン」  
発売中  
4K ULTRA HD 4,743円(税別)  
発売・販売元：ソニー・ピクチャーズ  
エンタテインメント

### 1 はじめに

「1990年代に作られた映画の中で、最も優れた映画である」との口コミに惹かれて鑑賞しましたが、口コミに偽りはありませんでした。

### 2 出演者

主人公は最高裁判事を父にもつ軍属の弁護人、ダニエル・キャフィ中尉(トム・クルーズ)。軍事法廷にて弁護人を務める、ハーバード・ロースクール卒の俊英です。相棒は、能力は高くないが情熱のある弁護人のジョアン・ギャロウェイ少佐(デミ・ムーア)。対する悪役はジャック・ニコルソン演じるネイサン・R・ジョセップ大佐。

この三人を軸として、脇役を『24』でジャック・パウアーを演じたキーファー・サザーランド、『アポロ13』のケビン・ベーコン、『ユージュアル・サスペクツ』のケビン・ポラックが支えるのですから、面白くないはずがありません。

### 3 あらすじ

舞台は、キューバ・グアンタナモ基地。被害者であるサンティアゴ一等兵は、基地内でいじめに遭い、他の基地への転属を求め軍上層部に手紙を出します。これに指揮系統を壊したとして激怒したジョセップ大佐は、部下のドーソン上等兵に「コード・レッド」を命じます。

「コード・レッド」とは、軍において規律を高めるための暗号で、平たく言えば体罰です。命令を受けたドーソン上等兵は、寝ているサンティアゴ一等兵を布団です巻きにして、口にハンカチを詰め、袋叩きにする予定でした。ところが、袋叩きにする前に、サンティアゴ一等兵はショック死してしまいます。

困ったのはジョセップ大佐。コード・レッドを命じたことは秘匿し、違法発砲を行ったドーソン上等兵が、

違法発砲を目撃したサンティアゴ一等兵に暴行を加え、死に至らしめたというストーリーを作ります。

サンティアゴ一等兵を殺したとして、軍法会議にかけられたドーソン上等兵。彼の弁護人であるキャフィ中尉とギャロウェイ少佐は、果たして、「サンティアゴ一等兵はジョセップ大佐の命令により死に至った」という真相を暴くことができるのでしょうか。

### 4 刑事弁護人として

ドーソン上等兵の無罪を信じるギャロウェイ少佐は、懐疑的なキャフィ中尉に対し、「貴方は彼を信じないの!？」と問いかけます。キャフィ中尉はこれに対し、「私が何を信じるかは問題ではない。私が何を立証できるか、それが問題だ」と答えます。

また、ハンカチに毒物が含まれていたと証言した軍側の専門家証人に対し、ギャロウェイ少佐が反対尋問を試みますが、これが大失敗。他の弁護人役のケビン・ポラックに「君の反対尋問のせいで、弁護人が専門家証人を恐れていると陪審員は思ってしまったぞ!」と叱責されます。

このように刑事弁護人として考えさせられる部分が多いのも、見所の一つです。

### 5 終わりに

ジョセップ大佐の、ラストシーンでの「You can't handle the truth!」というセリフは、繰り返し、様々な映画でオマージュされており、ご覧になった方もいるかもしれません。また、ジョセップ大佐がグアンタナモ基地を調査のために訪れたキャフィ中尉の調査依頼に対し、「You have to ask me nicely.」と言い放つシーンの迫力。数々の悪役を演じてきたジャック・ニコルソンの凄味を感じることができます。

この年代に作られた最高の映画、是非、ご鑑賞ください。